Vol.02

赤　城　山　観　光　情　報　紙

Take Free ¥0

AKAGIFT

SPRING / SUMMER 2018

特集

赤城登山鉄道の歴史をたどって。廃線跡を歩いてみよう。

赤城山で手作り「スローキャンプ」

おかぎこ女塾 花見て、甘味。

デンさんの てんで いい話。
隅に置けないスミレの話

週末、東京から2時間の里山環境リゾート **赤 城 山**

1957－1968

赤城登山鉄道の歴史をたどって。

「そのむかし、赤城山には登山鉄道が走っていた」と聞いて、驚く人も少なくはない。現在、赤城山頂へのアクセス方法は、マイカー、バイク、赤城山直通バスなどが当たり前だが、今から60年ほど前、桐生方面からケーブルカーを利用して、赤城山頂へアクセスする時代があった。そのケーブルカーを「赤城山鋼索鉄道」と呼んだ。車両は計２台、最大乗車人員は121名、まさに堂々たる「鉄道」が走っていた。その歴史をたどってみたいと思う。

急勾配に対応した車内。

万一ワイヤーが切れても自動的に停止する仕組みだった。

鉄道とバスが連携して赤城山へ観光客を運んだ。

工事中の山頂駅付近。

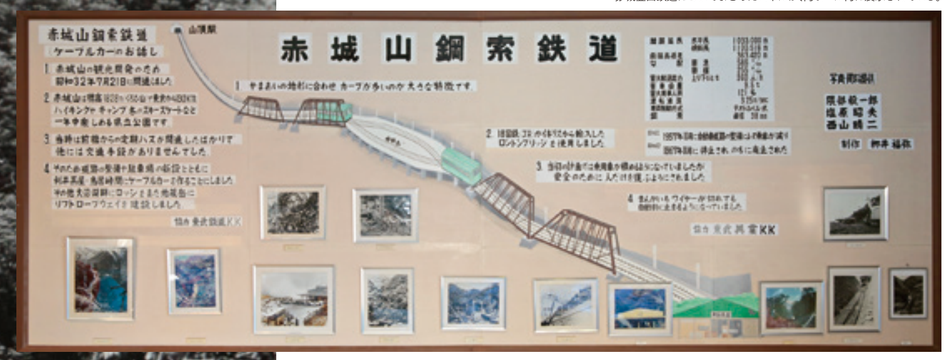
2018年3月
国登録有形文化財認定
旧赤城山鋼索鉄道赤城山頂駅駅舎及びプラットホーム

1957(昭和32)年、東武鉄道が群馬県の協力を得て、赤城山観光開発を目的に「赤城登山鉄道」を設立し、「赤城山鋼索鉄道」を開通させた。赤城山東側の地形が急峻で道路を建設できなかったため、桐生方面の利平茶屋から赤城山頂までの約１kmをケーブルカー(鋼索鉄道)で結ぶ最短ルートが誕生した。これにより、前橋～赤城山大洞～赤城山頂～利平茶屋～桐生という回遊ルートが、路線バスとケーブルカーで実現する。

赤城山観光の利便性が格段にアップしたことで、都内からの「日帰り旅行」も可能に。浅草から赤城山頂まで約４時間30分を結んだ。今の時代のスピードでいえば、「近い」とは言いがたいのかもしれないが、当時は飛躍的な進歩であった。こうして、春夏秋冬1年を通して赤城山に観光客が押し寄せた。夏は今も昔も変わらぬトレッキングやハイキング。冬は、スキーやスケートに興じる人で賑わったという。

しかしながら、1967(昭和42)年11月５日に「赤城山鋼索鉄道」は休止、翌1968(昭和43)年６月１日には廃止された。鉄道休止の１年前に、赤城南面有料道路・白樺ラインが整備され、前橋方面からマイカーでのアクセスが飛躍的に向上したためである。さらに上野―前橋間の直通の急行列車が走るようになり、東京から約３時間で赤城山頂まで行けるようになったことも、衰退に拍車をかけた。その一方で、道路整備が進まなかった桐生側からの乗客が激減、こうして夢の回遊ルートは幻となった。

「赤城登山鉄道」開業からわずか10年４か月後の出来事であった。



赤城登山鉄道についてまとめたパネルが、同ホール内に展示されている。

鳥居峠にある赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホール

今、最も注目すべきポイントは、「赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホール」、つまり旧赤城山頂駅だ。赤城登山鉄道開業の前年にあたる、1956(昭和31)年に地下１階、地上２階建ての鉄筋コンクリート造りの駅舎が建てられた。待合室、改札、運転室、宿直室等があるほか、駅舎に連続するように造られたプラットホームは、ケーブルカーが乗り入れを行うので、急峻な地形にあわせて傾斜し、階段状になっている特徴的な構造であった。

乗客らは、事務室で切符を買い、待合室を休憩等に利用した後に改札を通ってプラットホームの階段を降り、ケーブルカーに乗車していたという。プラットホームと改札の間には運転室があり、ワイヤーの巻き戻しや停止などのケーブルカーの操作が行われていた。このように実際の運転は、すべて運転室で行われており、運転手等はケーブルカーには乗車していなかった。万一の非常事態で、ワイヤー等が切れた場合は、自動的に停止する仕組みであった。

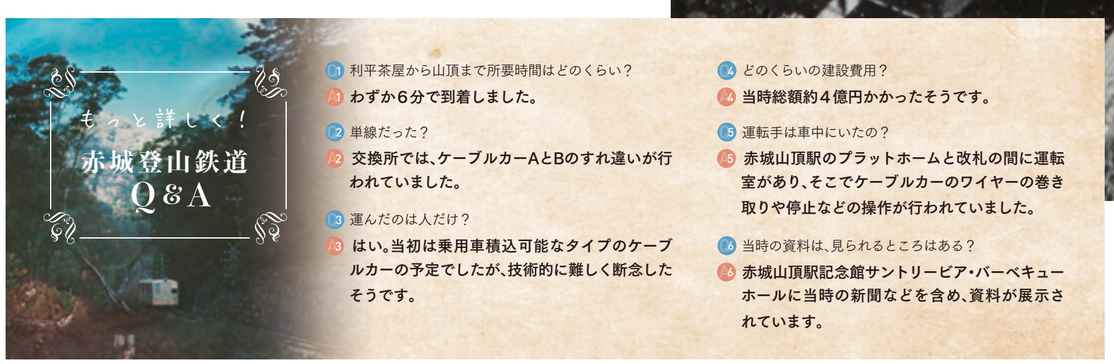
赤城登山鉄道廃線後、旧利平茶屋駅は取り壊され、現在、駅舎があった場所はあずま屋になっているが、赤城山頂駅は展望レストランとして活用されてきた。1994(平成６)年に駅舎の西側正面と北面を増築し、「赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホール」としてリニューアルしている。また、この建物自体、桐生市と前橋市の二市にまたがっており、旧駅舎部分は桐生市側、増築部分が前橋市側に建っている。旧駅舎の歴史的価値を後世にも受け継いでいこうと、オーナーの塩原勲さんの働きかけによって2018(平成30)年３月に「旧赤城山鋼索鉄道赤城山頂駅駅舎及びプラットホーム」が、国登録有形文化財として認定された。厳しい立地条件のもとで空間と機能を巧妙にまとめた戦後の観光施設として高い評価を得た。

旧赤城山頂駅舎は改築して現在も姿をとどめている。

ラチス梁

館内では、当時の赤城山開発の一大プロジェクトだった赤城登山鉄道の歴史がわかる鉄道建設時の写真や、利用風景、回遊の切符などの資料も保存して展示している。また、開放的な食事スペースでは、「組み格子」を意味するラチス梁と呼ばれる朱色の梁が見られる。改築の際、天井を取り払い、ラチス梁そのものは往時のまま生かされているとのこと。ぜひ、面影をたずねて足を運んでみてはいかがだろう。ここで提供されるコーヒーやエスプレッソは、建物から300メートル下で湧出する「御神水」をポンプでくみ上げて使用している。その味から、消え去りつつある往時を偲んでみるのもまた一興だ。

にぎわう赤城山頂駅



もっと詳しく！
赤城登山鉄道 Q&A

Q1 利平茶屋から山頂まで所要時間はどのくらい？
A1 **わずか６分で到着しました。**

Q2 単線だった？
A2 **交換所では、ケーブルカーAとBのすれ違いが行われていました。**

Q3 運んだのは人だけ？
A3 **はい。当初は乗用車積込可能なタイプのケーブルカーの予定でしたが、技術的に難しく断念したそうです。**

Q4 どのくらいの建設費用？
A4 **当時総額約４億円かかったそうです。**

Q5 運転手は車中にいたの？
A5 **赤城山頂駅のプラットホームと改札の間に運転室があり、そこでケーブルカーのワイヤーの巻き取りや停止などの操作が行われていました。**

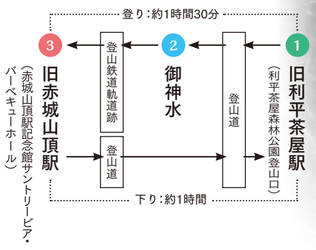
Q6 当時の資料は、見られるところはある？
A6 **赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホールに当時の新聞などを含め、資料が展示されています。**

廃線跡

旧赤城山頂駅 標高1,400m
＼／
旧利平茶屋駅 標高1,030m

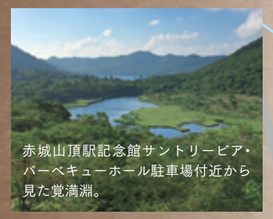
を歩いてみよう。

現在は利平茶屋森林公園となっている旧利平茶屋駅から旧赤城山頂駅までは2.3kmの登山道がある。山頂までの登山道と廃線跡は、完全に一致しているわけではないが、ほぼ平行するように、登っていくことができる。今回、実際に編集委員が歩いてみたが、「御神水」といわれる湧水地点からは、廃線跡を歩くことができる。下りは、迂回するようなコースなので、ぜひ旧利平茶屋駅から出発されてみてはどうだろう。



かつてあったロンドン橋。今は撤去されている。

「御神水」の地点から、実際に廃線跡を歩くことができる。


赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホール駐車場付近から見た覚満淵。

山頂駅付近で振り返ってみると、晴れていれば遠くに筑波山や東京スカイツリーがくっきりと見える。

3 標高1,400m

＼GOAL／

自動車CMのロケ地にもなったロケーション抜群のお食事スポット。

赤城山頂駅記念館
サントリービア・バーベキューホール

2

かつて皇族に献上されていたとのいわれもある赤城の「御神水」。体を清めると無病息災にご利益があるとのいわれがある。また、かつては採取したものを、トロッコに積んで運びあげていたという。

沢を横切るために木道がかかっている。滑りやすいので、十分注意して渡りたい。場所は少し離れるが、鉄橋もかかっていた。（すでに撤去されている）

＼START／

スタート地点は、利平茶屋駅があった利平茶屋森林公園。現在バーベキュー施設やキャンプ場として利用されている。

1 標高1,030m

利平茶屋駅標高1,030m

利平茶屋駅舎があった場所は、現在あずま屋になっている。登山口は、あずま屋（旧利平茶屋駅）の手前右側にある。

編集委員 そねちゃんMEMO

下の駅から上の駅までの標高差は約400m。階段の一段の高さを約16cmとして上から下まで階段が続いていると仮定すると2,500段ほどになるはず。熊本の日本一長い階段（3,333段）には及ばないものの、非常に長い階段であり、おそらく羽黒山の2,446段と並んで東日本1位（全国2位）になる可能性があったのではないかと、夢は膨らみました。

登山道拡大図

岩稜帯が続き、赤城南面とは驚くほど趣きが異なるので、トレッキングとしては非常に面白い。

利平茶屋森林公園から
御神水までの軌道跡は
所々分断されており歩くのは困難

参考資料：「鉄道廃線跡を歩く」宮脇俊三著
「交通東武（増刊号）」

旧赤城山頂駅

**現・赤城山頂駅記念館
サントリービア・バーベキューホール**

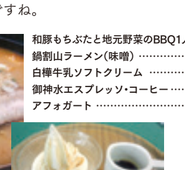
赤城登山鉄道廃線後の1983年に、旧赤城山頂駅の駅舎を私の親父が借り受けて「展望レストラン」としてオープンさせました。それから35年、観光客や登山客の方々に支えられて現在に至ります。過去に、サントリーの天然水で有名なビール（ダイナミック）に水が使われていたこともあるんですよ。これからも赤城山の歴史を物語る大切な文化財として守り継いでいきたいですね。

赤城山は、さまざまなミステリー、伝説があり、未知に包まれた山です。この山の魅力を知ってもらおうと、多くの商品を手がけ、発信してきましたが、今後は子どもたちも楽しめる絵本や物語を作成していけたらと考えています。それらを通して一人でも多くの方に赤城を好きになってもらう機会を増やせたらうれしいですね。

**赤城山頂駅記念館
サントリービア・
バーベキューホール**

前橋市富士見町赤城山鳥居峠
TEL.027-287-8444
開館時期：4月～11月
営業時間：9：00～17：00（不定休）

＼詳しくはコチラ！／



和豚もちぶたと地元野菜のBBQ1人前… 1,550円
絹割山ラーメン（味噌）……880円
白樺牛乳ソフトクリーム……330円
御神水エスプレッソ・コーヒー……390円
アフォガート……500円

赤城山白樺クーヘン
1個1,050円・1/3カット410円
甘すぎないから、オトナな味わい。

実り人プロフィール

#3 塩原勲さん
Isao Shiobara

赤城山生まれ。大学で新聞学を学んだあと、老舗百貨店に勤務。父親の跡を継ぐかたちで、現在、赤城山頂駅記念館サントリービア・バーベキューホールをはじめ、旅館やスキー場など多角的経営。また、AKAGIやる気塾の副塾長としてさまざまな商品開発も手がける。

旧利平茶屋駅

現・利平茶屋森林公園

標高1,030メートルに位置する利平茶屋森林公園は、バーベキューやキャンプを夏でも過ごしやすい気候で、かつリーズナブルに楽しめる場所として家族連れに人気の施設。鳥居川の浅瀬で川遊び、滝までのハイキングや、ツツジを愛でながら鳥居峠までトレッキングなど、さまざまな自然体験を楽しむことができる。また、遊漁券が必要だが、天然のイワナの渓流釣りもおすすめ。今シーズンは4月28日（土）からスタートする。

利平茶屋森林公園
桐生市黒保根町下田沢　赤面国有林内
TEL.0277-96-2588
開園期間：4月28日～10月31日

＼詳しくはコチラ！／

キャンプ場料金表

管理費		バンガロー6人用 ……	5,140円～
大人：200円		持ち込みテント入園料 ……	大人200円　小人150円
小人：100円		持ち込みテント1張 ……	820円
		バーベキューあすま屋（2時間）…	1,020円（10人用）
			2,040円（20人用）
		炭……	710円
		薪……	200円
		寝具（1人）……	410円

デマンドタクシー料金

中学生以上：1回300円
小学生：150円
未就学児：無料
運行時間：8:30～17:20
TEL.0120-55-3744

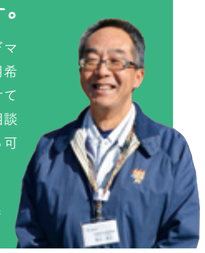
耳より情報

キャンプ場へのアクセスに、ぜひご利用ください！

デマンドタクシー。

最寄りの駅からキャンプ場までデマンドタクシーが送迎します。ご利用希望者は、キャンプ場予約時にあわせてご相談ください。団体の場合もご相談ください。予約は3日前から当日も可能（30分前まで）です。

桐生市黒保根支所地域振興整備課
管理人　関口武久さん



CAMP AKAGI

赤城山で手作り「スローキャンプ」

キャンプの醍醐味は、自然と一体になって、「自分の手」でやってみるということ。テントを張ったり、薪を割ったり、地元の食材を調達して料理をしたり…。群馬県や埼玉県はもとより、都内からのアクセスが良好の群馬県・赤城山だからこそ、時間をたっぷりかけて楽しめる手作り感満載の「スローキャンプ」、おすすめです。

オーナー自ら作り上げた夢のキャンプ場!

手作りキャンプ場 キャンプ 冒険仲間

手作りキャンプ場 キャンプ冒険仲間には、テーマが明確にある。「火を使って楽しむアウトドア」。その楽しみ方は、実に様々だ。特徴的なのは、「薪風呂」。薪を燃やしてお風呂を沸かす、いわゆる五右衛門風呂がある。家庭ではまず味わえない雰囲気も一緒に楽しみながら芯まで温まれば、1時間以上身体が冷めにくいという。

薪は一束300円で有料だが、初心者には薪割りの仕方から懇切丁寧に教えてくれるのが、またいい。たとえば子どもと一緒に薪を鉈で割って、小さな細い薪からくべて、火を大きく育てていく。大きく育てた火を使って、それでご飯を炊いてもいいし、キャンプの定番、カレーを煮込んでもいい。さらにオーナーの松本さんが、時間をみてコーヒーを沸かしておいてくれることもある。「ここに来てくれた誰もが火を囲んで集える語らいの場を作りました。語らいにコーヒーは必須でしょ」と笑う。

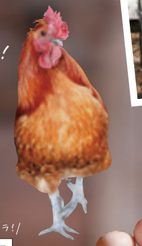
そもそも冒険仲間とはどんなキャンプ場なのかご説明したい。一言でいうならば、非常に希有なキャンプ場だ。まず、県道から一本入ると、キャンプ場にたどり着くまでになかなか険しい道を走らねばならない。街の平地しか走ったことがないという人は少々驚くかもしれない。しかしながらガタゴト左右に揺られながら到着したそこは、アウトドア好きな人にとってみればまさに「桃源郷」。いわゆる“日常の喧噪とは切り離された”という表現がこれ以上なくしっくりくる空間だ。

鳥骨鶏がいる小さな農場があって、山羊がいて、公園にあるそれとは比べものにならないほどアグレッシブなターザンロープや、木を蹴り飛ばしながら360度あらゆる方向にこげるブランコがあって、雑魚寝をするスペースまである。夜は、電気はなく、ランプの明かりと月明かりで過ごす。実にエッジが効いていて面白い。実際に小学5年生の男の子と、小学2年生の女の子を連れてきたのだが、ずっと駆けずりまわっていた。

キャンプ場を自らの手で作り上げ、その管理を一人で担う松本さんとはどんな人物なのだろう。30代半ばまで都内でサラリーマンをしたりスポーツ関連の専門学校に通ったりしていたが、ふと思い立って日本全国北海道から九州まで旅をして、安住の地、そして“チャレンジの地”に選んだ場所がここ黒保根だった。貯金をはたいて1万平米の土地を購入。こつこつと一から、「冒険仲間」を手作りしていったのが、もう10年以上前のことになる。正式なオープンはまだ5〜6年前だ。

「幼かった頃、まだキャンプなんて今みたいに流行っていなかった時代。おやじとおふくろが猪苗代湖に連れていってくれて、布きれを縫って作ったテントに泊まったんだ。」そんな鮮やかな子ども時代のキャンプの思い出が、松本さんの原点になっている。

さあ、魅力たっぷりの「冒険仲間」の仲間入りをしよう。松本さんのおすすめは、新緑がまぶしくなる5月末から6月はじめ。そして木々の葉が落ちて、星が美しく瞬く秋だそうだ。



手作りキャンプ場
キャンプ 冒険仲間

桐生市黒保根町下田沢2319-13
TEL.090-7816-0368
Email:bouken-nakama@docomo.ne.jp
営業期間：4月下旬〜11月末日
（7・8月は毎日営業。7・8月以外は土日祝日営業ですが、ご希望により平日もご予約承ります。）

- 冒険料（場内使用料＋清掃費）
  一般サイト／500円　ツーリングサイト/400円 ※
- 駐車場
  一般サイト／500円　ツーリングサイト/100円 ※
- 区画持ち込みテント／1,000円 ※
- バンガロー　1人2,000円 ※
- 薪風呂／薪割り体験　1人300円　など

※1泊の場合

詳しくはコチラ!

実り人プロフィール

#4 松本恒春さん
Tsuneharu matsumoto

埼玉・東松山市出身。サラリーマン等を経て、15年ほど前、黒保根の地に移住。黒保根唯一の私営キャンプ場「冒険仲間」をオープンさせた。

CAMP GOHAN

国道353 ROUTE

農直で美味いものを集めて キャンプごはん。

新鮮な野菜やフルーツ、たまご、おいしいチーズなどを調達して、赤城山で「キャンプごはん」はいかが。外で食べるごはんは格別、仲間と食べるごはんも格別、さらに赤城の食材で料理すれば、間違いない！
簡単な「キャンプごはん」のポイントや、赤城南面道路（国道353号）沿いで人気の農産物直売所など5店舗を要チェックだ。

1 Cut!

キャンプの相棒、折りたたみナイフを使って。材料を切るのはもちろん、小枝などを切るのにも便利。

蓋付きの深さもある鍋があると便利。これでシチューもできちゃうし、ご飯だって炊けちゃうよ。

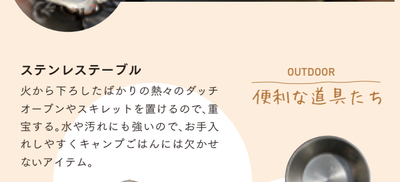
2 Cooking!

まずはバターをたっぷり溶かして。小麦粉投入！牛乳投入！ダマにならないように、ひたすら混ぜる。
おいしいベシャメルソースができた！一から作るのがキャンプごはんの醍醐味でもある。

シチューを煮込んでいる間にカンタンにできちゃうハムとチーズのホットサンドをつくるよ。

3 Cook Together!

タマネギ、にんじん、ジャガイモ、ブロッコリーをごろごろ入れて。彩りにほうれん草をトッピングして軽く煮込んで完成！ウインナーを切ってシチューに入れてもいいし、添えて食べても◎！



取材協力：NPO法人 まえばし農学舎

OUTDOOR
便利な道具たち

ステンレステーブル
火から下ろしたばかりの熱々のダッチオーブンやスキレットを置けるので、重宝する。水や汚れにも強いので、お手入れしやすくキャンプごはんには欠かせないアイテム。

シェラカップ
チタン製が軽くておすすめ。火にそのままかけられるので便利。コーヒーカップや計量カップとして使えたり、おたまにも早変わり。

スキレット
熱伝導率の高い鉄製のスキレットは、使い勝手がいい優れもの。ハムやソーセージを焼いてみよう。シーズニングが面倒だけど、使い込めば使い込むほど愛着がわく！

1 農事組合法人 風ラインふじみ

地元富士見産にこだわった米、新鮮野菜、農産加工品のほか、豚肉やソーセージ、日本酒など、良質な商品が幅広く並んでいる。

おすすめPOINT!
工房で毎日手作りされる、前橋産の小麦でできた絶品「赤城山食パン」

前橋市富士見町石井1560-40　TEL.027-288-5422
営業時間：夏季（3月〜9月末）9:00〜18:00
　　冬季（10月〜2月末）9:00〜17:00
定休日：木曜日（祝日の場合は営業）

詳しくはコチラ!

2 花木農産物直売所 さんぽ道

開店前から行列ができるほどの人気の直売所。地元産の原木しいたけは、味良し、価格良しで、毎日飛ぶように売れる。

おすすめPOINT!
6月半ばから並ぶ、ゴールドラッシュ、サニーショコラなど、甘くておいしいトウモロコシ

詳しくはコチラ!

前橋市滝窪町813-205　TEL.027-284-0011
営業時間：夏季（3月〜9月）9:30〜17:30
　　冬季（10月〜2月）9:30〜16:30
定休日：無休（12月31日〜1月6日休業・臨時休業）

3 林牧場福豚の里 とんとん広場こだわりショップ

オリジナル銘柄豚・福豚の精肉、ハムソーセージ、ベーコンなどを中心に、チーズやジャムなど県内外のおいしい逸品が集まる。

おすすめPOINT!
本場ドイツ仕込みのハムソーセージ

前橋市三夜沢町534　TEL.027-283-2983
営業時間：
夏季（4月〜11月）平日10:00〜18:00・土日祝日10:00〜20:00
冬季（12月〜3月）平日10:00〜17:00・土日祝日10:00〜19:00
定休日：無休

詳しくはコチラ!

4 風の駅 やげんじ

きのこ園から直送される種類豊富なきのこ類のほか、地元産の新鮮野菜やタマゴ、おいしい加工品などが揃う。

おすすめPOINT!
ハナビラタケ、マイタケ、新鮮got なめぎみ、あんぴんもち

詳しくはコチラ!

前橋市鼻毛石町2490　TEL.027-280-2022
営業時間：8:30〜17:00（12月〜2月は16:30まで）
定休日：年始のみ

5 新里町農産物等直売所

各季節に応じた地元産の新鮮な野菜や、きのこ、山菜類のほか、こんにゃく、まんじゅう、餅、味噌などの加工品が並びます。

おすすめPOINT!
タケノコ、山菜物（こごみ、わらびなど）、春キャベツ

桐生市新里町赤城山553-1　TEL.0277-74-4100
営業時間：夏季（3月〜10月）9:00〜17:00
　　冬季（11月〜2月）9:00〜16:00
営業日：1月・2月土曜日、日曜日、祝日のみ営業
　　3月〜12月 月曜日を除く毎日営業
　　（但し月曜日が祝日の場合は営業）

詳しくはコチラ!

あかぎ乙女塾
Lesson2

花見て、甘味。　～春のお出かけは黒保根へ♪～

ドライブの途中に、トレッキングや散策帰りに、道の駅くろほね やまびこで、一風変わったアイスクリームはいかが？とっても珍しいフレーバーは、「山椒」「ルバーブ」「さくら」「黒大豆」「ふきのとう」の全５種類。地元産の食材にこだわって作られています。ぜひ全種類コンプリートを目指してみてください。たっぷり入って１つ300円（税込）。

道の駅くろほね やまびこ
桐生市黒保根町下田沢91-4　TEL.0277-96-2575
営業時間：[直売所] 9:00～17:00
　　[食　事]11:00～15:00　※土日祝は15:30
店休日：無休
※年末年始は休館させていただきます。
※食事は12月～3月の火曜日もお休みとなります。

詳しくはコチラ！

見頃 4月上旬～5月中旬

利平茶屋へのさくら街道

（桐生市黒保根町下田沢一の鳥居～利平茶屋へ向かう県道沿い）

平成元年頃、村民をあげて桜の木を植樹しました。約６kmに及ぶさくら街道は、下田沢一の鳥居をスタートして、ソメイヨシノ、八重桜、ヤマザクラと変化していくのが魅力のひとつです。見頃は、４月上旬～５月中旬ですが、薄紅色のサクラの花びらが舞い散るタイミングも、ロマンチックなドライブになりそう。

詳しくはコチラ！

桐生市黒保根支所地域振興整備課
澤浦朋枝さん

清水つつじ街道

（桐生市黒保根町下田沢
清水地区～柏山地区）

詳しくはコチラ！

共有林からツツジの苗を平成初期に移植して、地元自治会の皆さんが手入れをして育ててきたツツジ街道。清水地区の市道沿いにヤマツツジを中心に約1000本が植えられており、４月下旬から５月上旬にかけて街道が見事なツツジ色に染まります。

見頃 4月下旬～5月上旬

赤城山環境ガイドボランティアがそっと教える

デンさんのてんでいい話。

Episode #2

隅に置けないスミレの話

～春から秋にわたり、生き残りを懸ける戦略的な花～

赤城を代表する花といえばツツジが有名ですが、今回皆さんの足元で「私にも気を配ってちょうだい」と言わんばかりに自己主張している『スミレ』について、これから始まる登山シーズンに向け、その花の構造と力強い生命力についてお話ししたいと思います。

開花時期は３月から６月ですが、皆さんしっかりと花の様子を見たことがありますか？

その語源は「大工さんが加工する材木に線をつけるときに使う〈墨入れ〉に似ている」からきているといわれています。

５枚の花から構成され、上の２枚を上弁、両脇の２枚を側弁、下部の１枚を唇弁といいます。

唇弁には「昆虫が、入場する道」みたいな線がついています。その奥には蜜の壺である距といわれる部分があり、ちょうどスミレは、昆虫を蜜で誘惑して自分の部屋へ招き入れ、昆虫のからだに花粉を付け、仲間のスミレとの受粉作業をしてもらう方法（他家受粉）をとっています。

ちなみに、このように花を咲かせて受粉する方法をとる花を“開放花”といいます。スミレの凄いところは、可憐な花が散った後の夏や秋でも次々に蕾を作り、その蕾の中で自家受粉をしてタネを作る“閉鎖花”に変身し、仲間を増やすことに没頭することです。

本来この自然界に生息する動植物は、遺伝的多様性を前提に、次の行動にでるものです。“近親交配、自家受粉による遺伝子の劣化を防ぐ”にもかかわらず、スミレはあらゆる方法で生き残りのためには手段を選びません。スミレは小さな植物なので、夏になると他の植物が繁茂して自分の葉に日光が届きません。するとなんと！自分の葉を大きくする技をやってのけます。植物はこの世で一度生を受けたら、その場所から逃れることはできません。人間とは違って移動することができないので、自分で状況に応じて変化する力を蓄えているのではないでしょうか？

そうでなければ早々にこの自然界から絶滅していたかもしれません。

赤城山で見られる主なスミレ

写真協力：大平満さん（著書：群馬のスミレより）

５月８日は赤城山の山開きの日です。里にいた神様が山に登ってくる日です。皆さん、赤城の登山道を歩きながら、足元に咲くスミレを愛で、その生命力を想い、自分に昇華させましょう。

赤城自然塾 環境ガイドボランティア　デンさん

新メンバーのご紹介
AKAGIFT編集委員

NPO法人 赤城自然塾
赤城山ツーリズム地元推進協議会

〒371-0201
群馬県前橋市粕川町中之沢7番地 サンデンフォレスト内
TEL.027-212-2611　FAX.027-212-2691
http://www.akagi-trip.com

information

AKAGIFT × ぐんまのクチコミナビ！ぐんラボ！

AKAGIFTはクチコミサイト「ぐんラボ！」とコラボし、スポットの最新情報やクチコミをチェックできるようになりました！お出かけの際は各QRコードに、ぜひアクセスしてみてくださいね！

[表紙の写真] 全国的にも貴重なサクラソウ自生地周辺を整備した「サクラソウふれあい公園」（桐生市新里町）。４月中旬～５月中旬、ピンク色の可憐な姿で人々を魅了する。